

塗装 & デカール / Painting & Marking

A 第127飛行隊 1944年6月 ノルウェー ノースフィールド
127th Sqn. Northfield, Norway, June 1944

C368 - スカイ BS381C/210
XF-21 スカイ

C61 H76 焼鉄色
Burnt Iron
XF-7:1+XF-56:5

C362 - オーシャングレー
Ocean Gray
XF-54 ダークシーグレイ

C33 H12 つや消しブラック
Flat Black
XF-1 フラットブラック

C363 - ミディアムシーグレイ
Medium Sea Gray
XF-19 スカイグレイ

C47 H90 クリアーレッド
Clear Red
X-27 クリヤーレッド

C361 - ダークグリーン BS641
Dark Green BS641
XF-58:1+XF-6:6

C61 H76 焼鉄色
Burnt Iron
XF-7:1+XF-56:5

C50 H93 クリアーブルー
Clear Blue
X-23 クリヤーブルー

C363 - ミディアムシーグレイ
Medium Sea Gray
XF-19 スカイグレイ

C362 - オーシャングレー
Ocean Gray
XF-54 ダークシーグレイ

C361 - ダークグリーン BS641
Dark Green BS641
XF-58:1+XF-6:6

C368 - スカイ BS381C/210
Sky BS381C/210
XF-21 スカイ

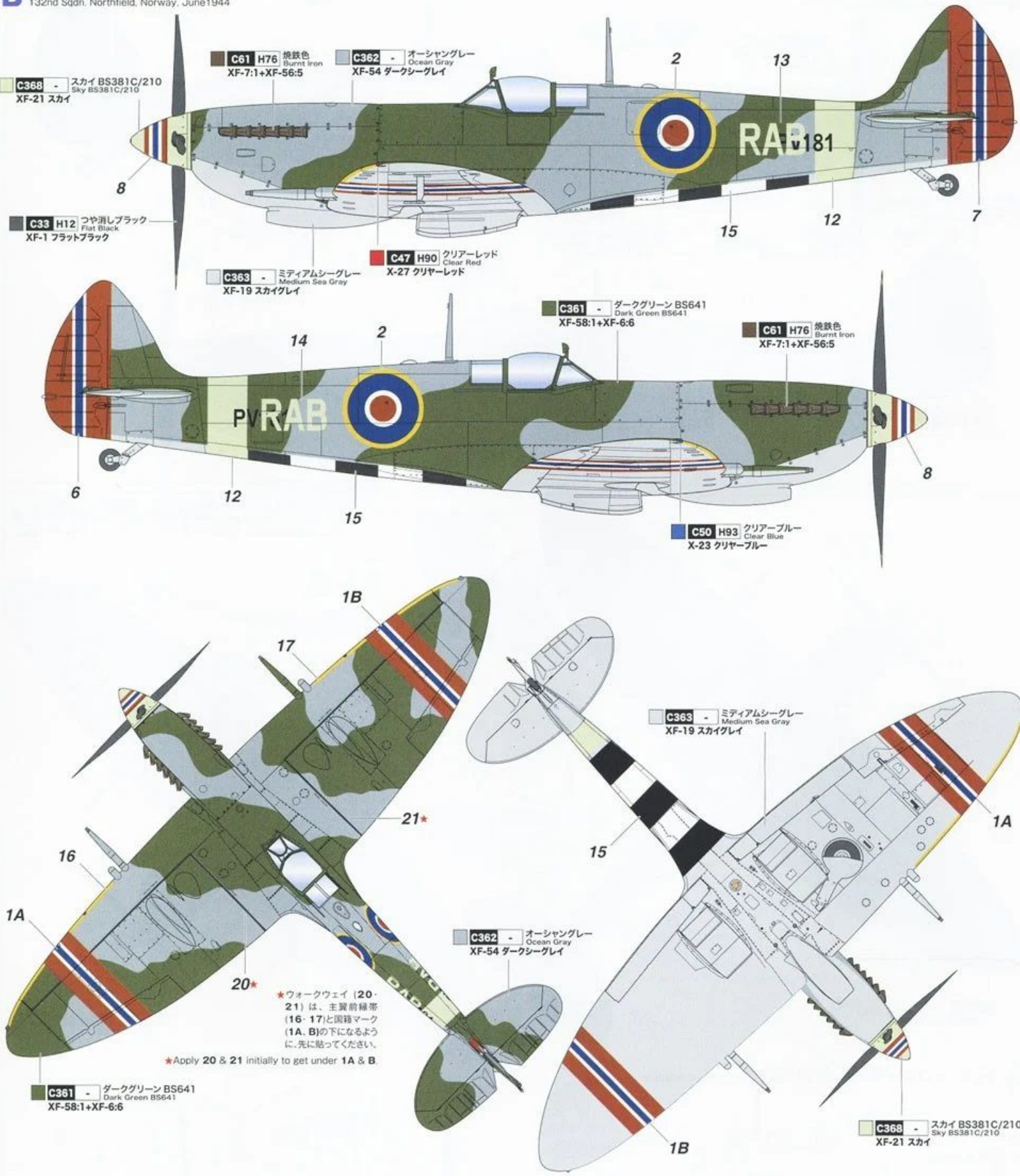
★ウォークウェイ (20・21) は、主翼前縁帯 (16・17) と国籍マーク (3) の下になるように、先に貼ってください。
★Apply 20 & 21 initially to get under 3s.

A B コーシオンデカール (共通) Stencils - Common

★ウォークウェイ (20・21) は、主翼前縁帯 (16・17) と国籍マーク (3) または (1A, B) の下になるように、先に貼ってください。

塗装 & デカル / Painting & Marking

B 第132飛行隊 1944年6月 ノルウェー ノースフィールド
132nd Sqn. Northfield, Norway, June 1944



C368 - スカイ BS381C/210
Sky BS381C/210
XF-21 スカイ

C61 H76 焼鉄色
Burnt Iron
XF-7:1+XF-56:5

C362 - オーシャングレー
Ocean Gray
XF-54 ダークシーグレイ

C33 H12 つや消しブラック
Flat Black
XF-1 フラットブラック

C47 H90 クリアーレッド
Clear Red
X-27 クリヤーレッド

C363 - ミディアムシーグレイ
Medium Sea Gray
XF-19 スカイグレイ

C361 - ダークグリーン BS641
Dark Green BS641
XF-58:1+XF-6:6

C61 H76 焼鉄色
Burnt Iron
XF-7:1+XF-56:5

C50 H93 クリアーブルー
Clear Blue
X-23 クリヤーブルー

C363 - ミディアムシーグレイ
Medium Sea Gray
XF-19 スカイグレイ

C362 - オーシャングレー
Ocean Gray
XF-54 ダークシーグレイ

C361 - ダークグリーン BS641
Dark Green BS641
XF-58:1+XF-6:6

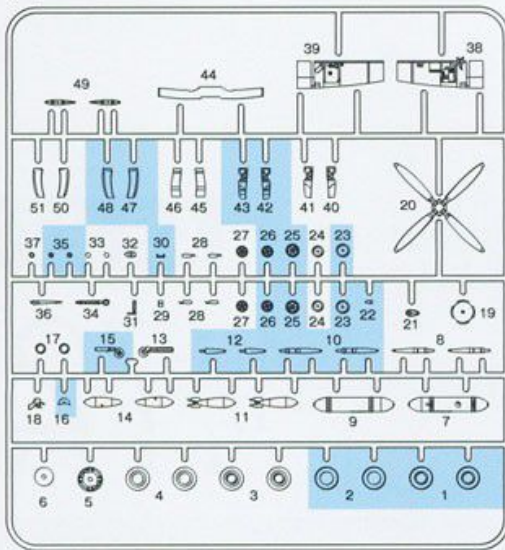
C368 - スカイ BS381C/210
Sky BS381C/210
XF-21 スカイ

★ウォークウェイ (20・21) は、主翼前縁帯 (16・17) と国籍マーク (1A・B) の下になるように、先に貼ってください。

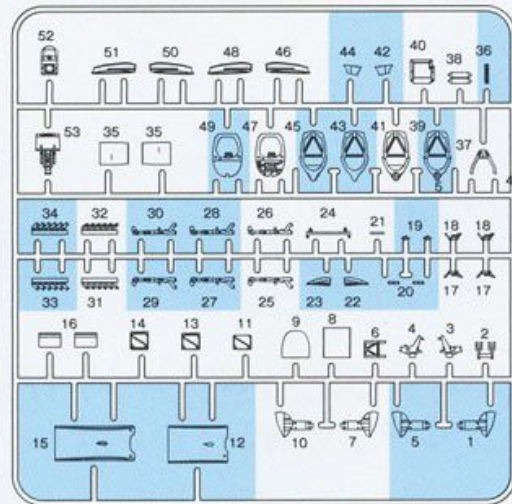
★Apply 20 & 21 initially to get under 1A & B.

部品図

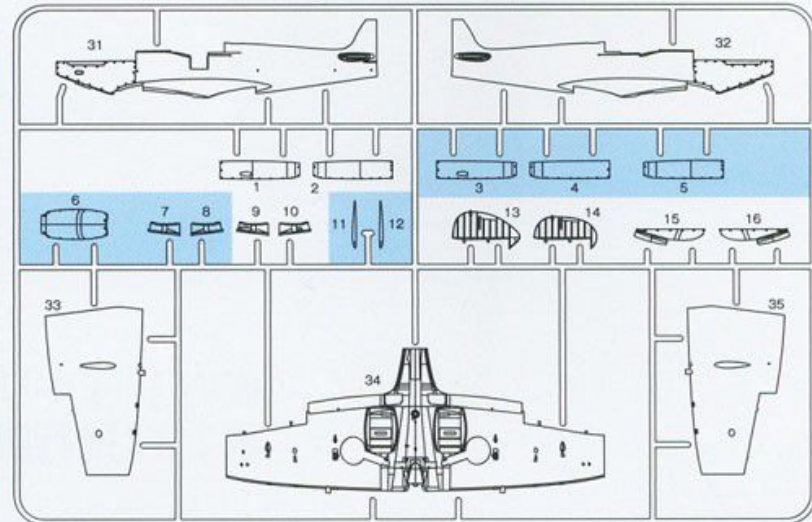
A



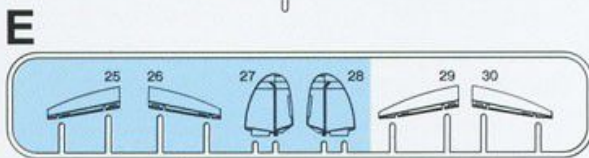
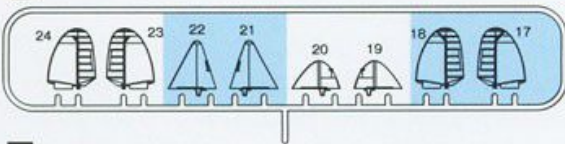
B



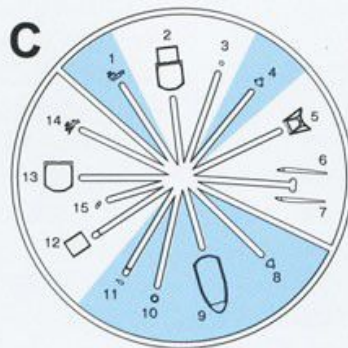
H



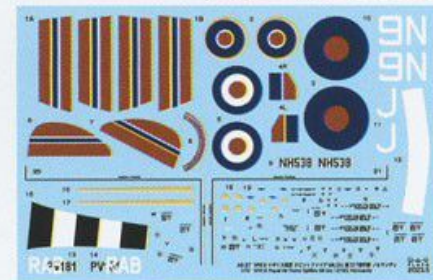
D



C



デカール Decals



■ = 使用しません
Not for use

組み立て説明書(本紙) ×1
Instruction sheet ×1

実機について

About the Aircraft

ドーバー海峡を越えて飛来するドイツ空軍戦闘機や爆撃機を迎え撃ち、防空に奮戦したイギリス空軍の主力戦闘機がスピットファイアでした。試作機が初飛行に成功したのは1936年。1938年に就役したのちも機体、エンジン共に改良が絶えることなく続けられ、スピットファイアは大戦中だけでなく戦後まで活躍する傑作機となったのです。

スピットファイアはイギリスのスーパーマリン社によって開発されました。主任設計者はR.J. ミッチェル。第二次大戦前に開催されていた水上機によるスピードレース、シュナイダートロフィーで勝利を収めた機体の設計者としてその名を知られていました。そのミッチェルが手掛けることになった初の戦闘機はレース機でのノウハウを生かし、洗練されたスマートな機体に大きな特徴となる薄型の楕円翼を主翼に採用。空力的に優れたデザインであっただけでなく、全金属製のモノコック構造や密閉式コクピットを採用するなど、先進的な設計が施されたものでした。エンジンにはロールスロイス社が開発した990馬力のマーリンCエンジンを搭載。1936年3月に初飛行に成功すると最高速度550km/hを記録し、優れた運動性能を発揮して6月には制式化、量産化の指示が出されたのです。しかし、モノコックの機体構造などの新しい技術への対応に時間がかかり量産機の配備が開始されたのは1938年のことでした。最初の量産型はMk.Iでエンジンは1段1速のスーパーチャージャーを装備したV型12気筒ロールスロイス・マーリンを搭載。配備された後も機体、エンジン共に改良が絶え間なく続けられます。その中で1942年に登場したのがMk.IXです。エンジンはスーパーチャージャーを2段2速にアップデートし最大出力1700馬力オーバーまで高められたマーリン60シリーズを搭載。機体はそれまでもエンジンのパワーアップに合わせて実施されてきた強度

アップがさらに計られたほか、プロペラも4ブレードタイプへと変更。最高速度は650km/hを超え、高度6000mまで7分を切るなど、卓越した性能を発揮したのです。特に離陸後できるだけ早く高度を取ることが有利に働く迎撃戦を展開する迎撃戦闘機として優れた能力を持つ機体として完成されていったのです。スピットファイアMk.IXは1945年まで約5900機が生産されたと言われ、スピットファイアの完成形のひとつともいわれています。

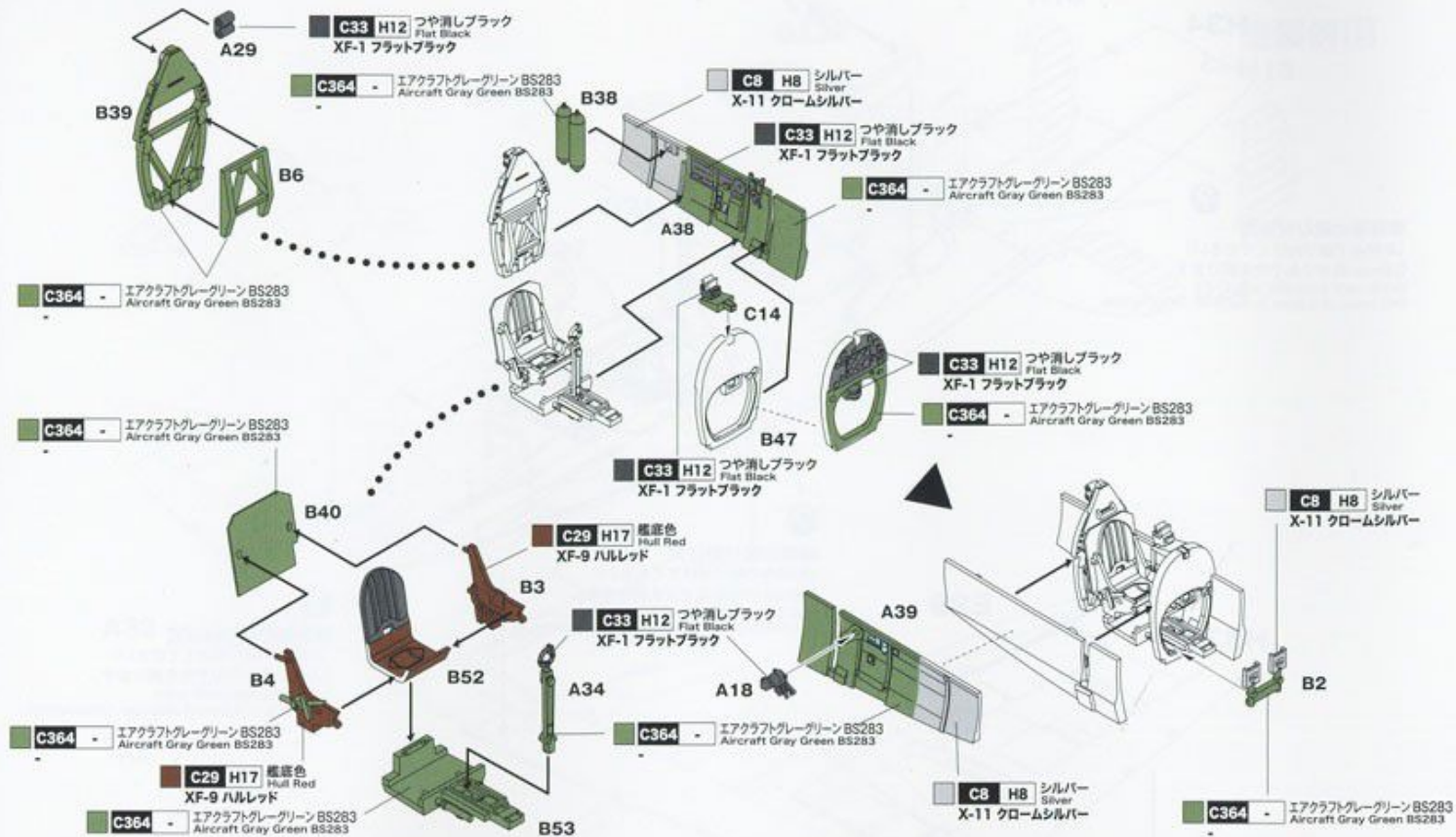
Mk.Iから数えて24タイプが生み出されたスピットファイアは機体、エンジン共に最初の形状を大きく変えることなく性能向上に対応。それは基本設計がいかに優れていたかを物語ります。主任設計者のミッチェルはすでに開発当時癌を発症し、初飛行まで見届けたもののその後の実戦での活躍を目にすることなくこの世を去っていました。ミッチェルが命をかけて完成させたスピットファイアは大戦初期のバトル・オブ・ブリテンからノルマンディ上陸作戦など、イギリス空軍で終戦まで主役として奮闘。救国の戦闘機として高い賞賛を集めているのです。

The Spitfire of the Royal Air Force is known as a masterpiece fighter of World War II. Its major feature is adopting an elliptical main wing design, contributing to its excellent flight performance. Its maiden flight was made in 1936. In 1939, the first mass-produced Mk. I appeared. After that, numerous types were subsequently developed through continuous improvements. Among them, Mk. IX was deployed in units in 1942. The engine is a Merlin 60 series with a two-stage, two-speed supercharger. The maximum speed was 650km/h. The Spitfires played a leading role in various variants from the early stages of the Battle of Britain to the Normandy landings and throughout the war until its conclusion. Even after the war, Spitfire was continued to be used in many countries around the world.

The Spitfire of the Royal Air Force is known as a masterpiece fighter of World War II. Its major feature is adopting an elliptical main wing design, contributing to its excellent flight performance. Its maiden flight was made in 1936. In 1939, the first mass-produced Mk. I appeared. After that, numerous types were subsequently developed through continuous improvements. Among them, Mk. IX was deployed in units in 1942. The engine is a Merlin 60 series with a two-stage, two-speed supercharger. The maximum speed was 650km/h. The Spitfires played a leading role in various variants from the early stages of the Battle of Britain to the Normandy landings and throughout the war until its conclusion. Even after the war, Spitfire was continued to be used in many countries around the world.

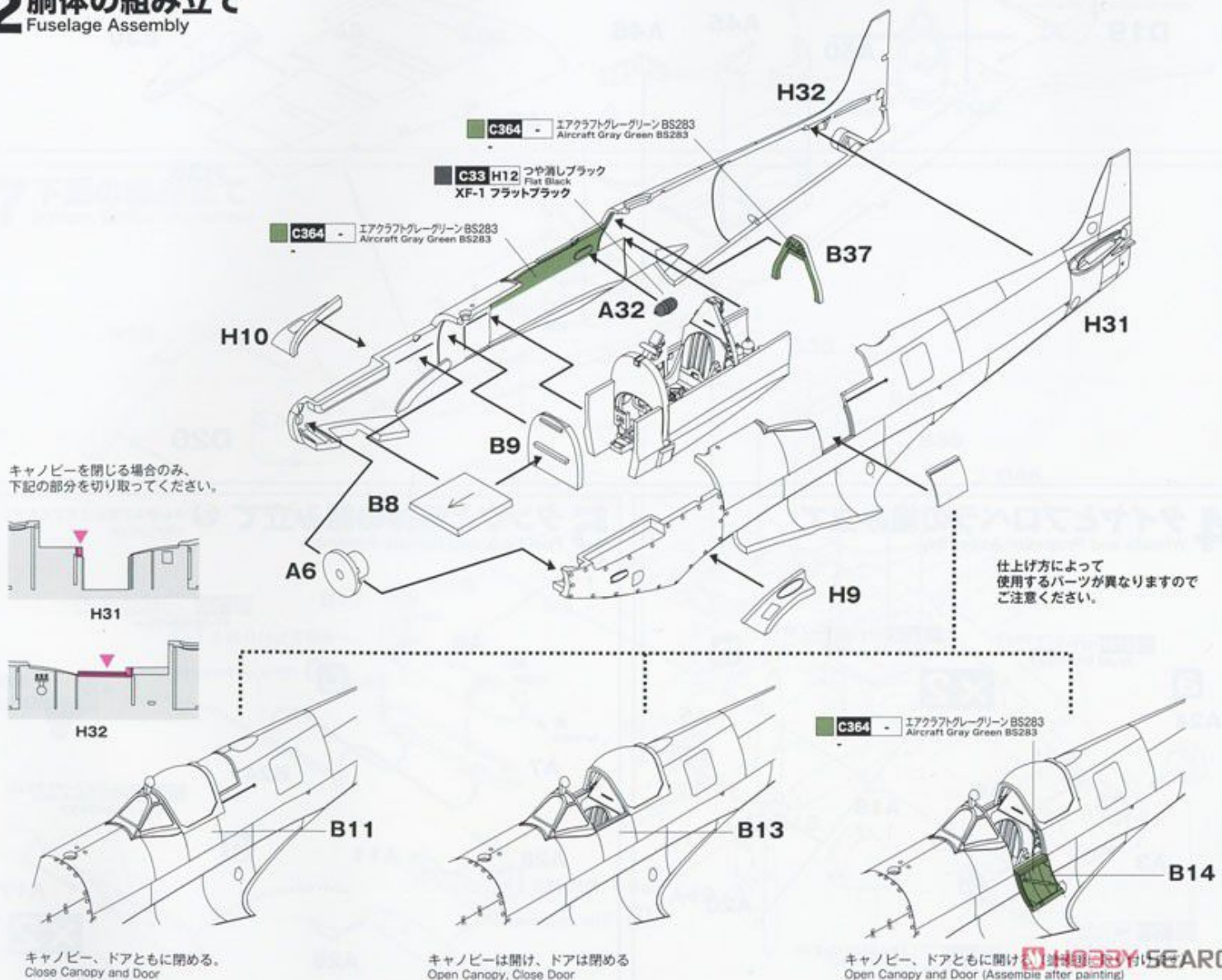
1 コックピットの組み立て

Cockpit Assembly



2 胴体の組み立て

Fuselage Assembly



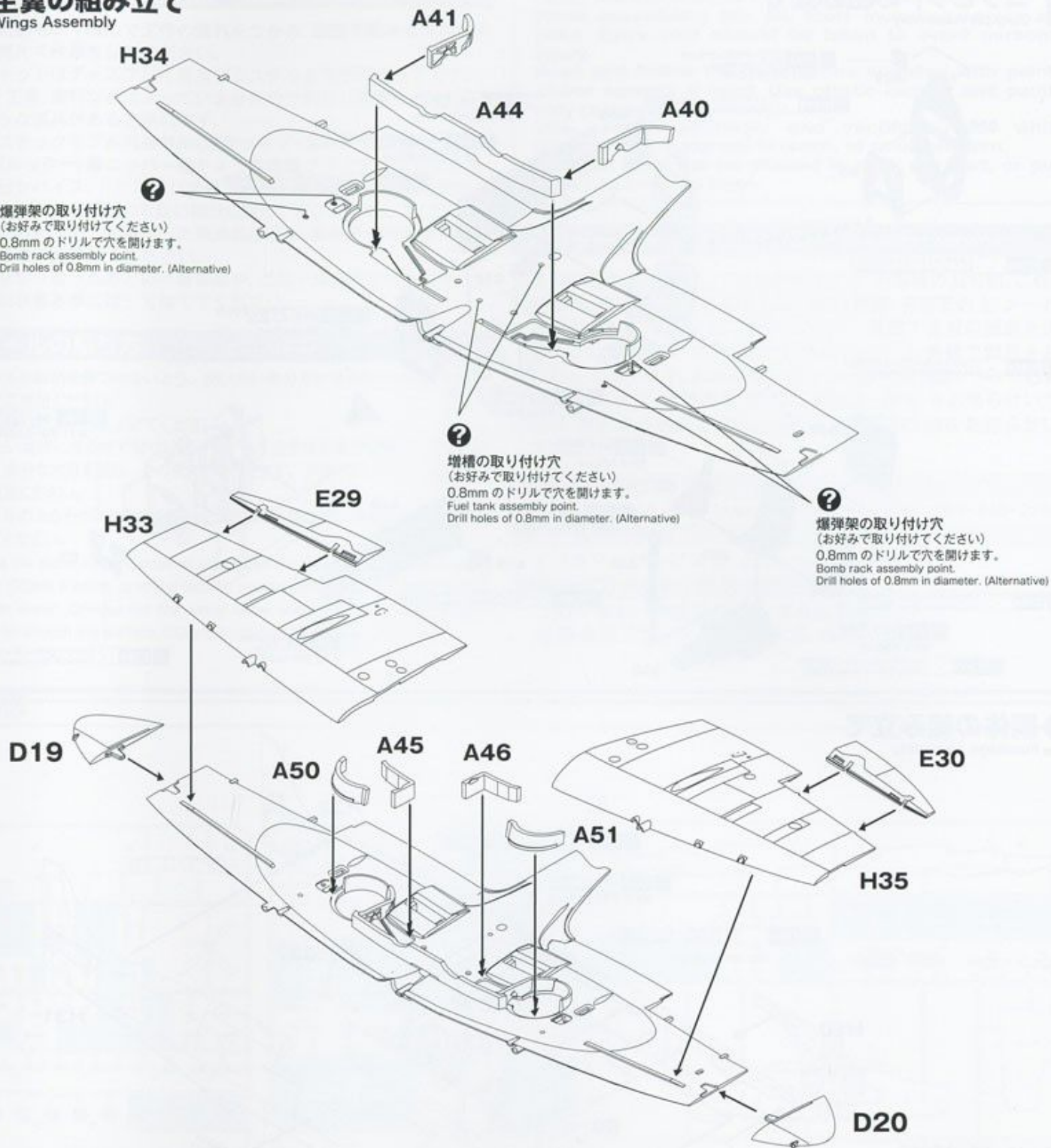
3 主翼の組み立て

Wings Assembly

爆弾架の取り付け穴
(お好みで取り付けてください)
0.8mm のドリルで穴を開けます。
Bomb rack assembly point.
Drill holes of 0.8mm in diameter. (Alternative)

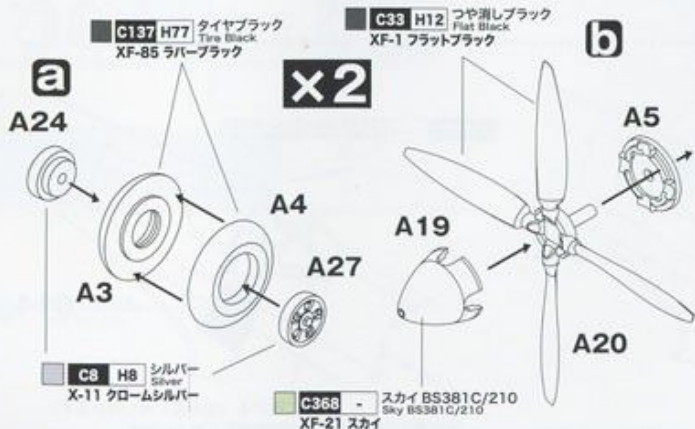
増槽の取り付け穴
(お好みで取り付けてください)
0.8mm のドリルで穴を開けます。
Fuel tank assembly point.
Drill holes of 0.8mm in diameter. (Alternative)

爆弾架の取り付け穴
(お好みで取り付けてください)
0.8mm のドリルで穴を開けます。
Bomb rack assembly point.
Drill holes of 0.8mm in diameter. (Alternative)



4 タイヤとプロペラの組み立て

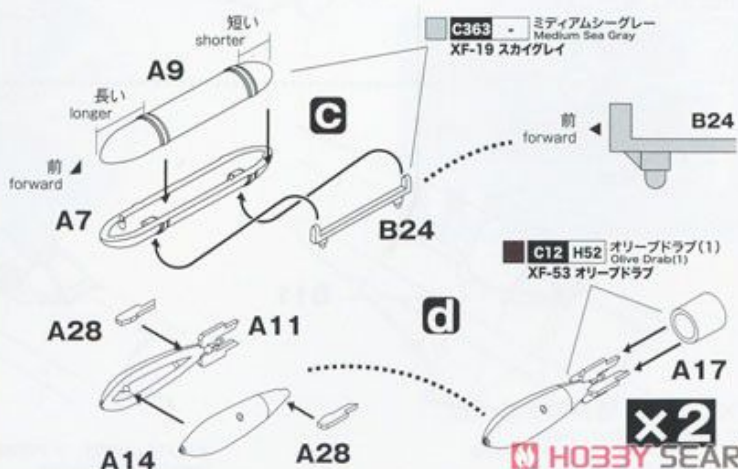
Wheels and Propeller Assembly



5 タンクと爆弾の組み立て

Fuel tank and Bombs Assembly

※お好みで組み立ててください。
Alternative

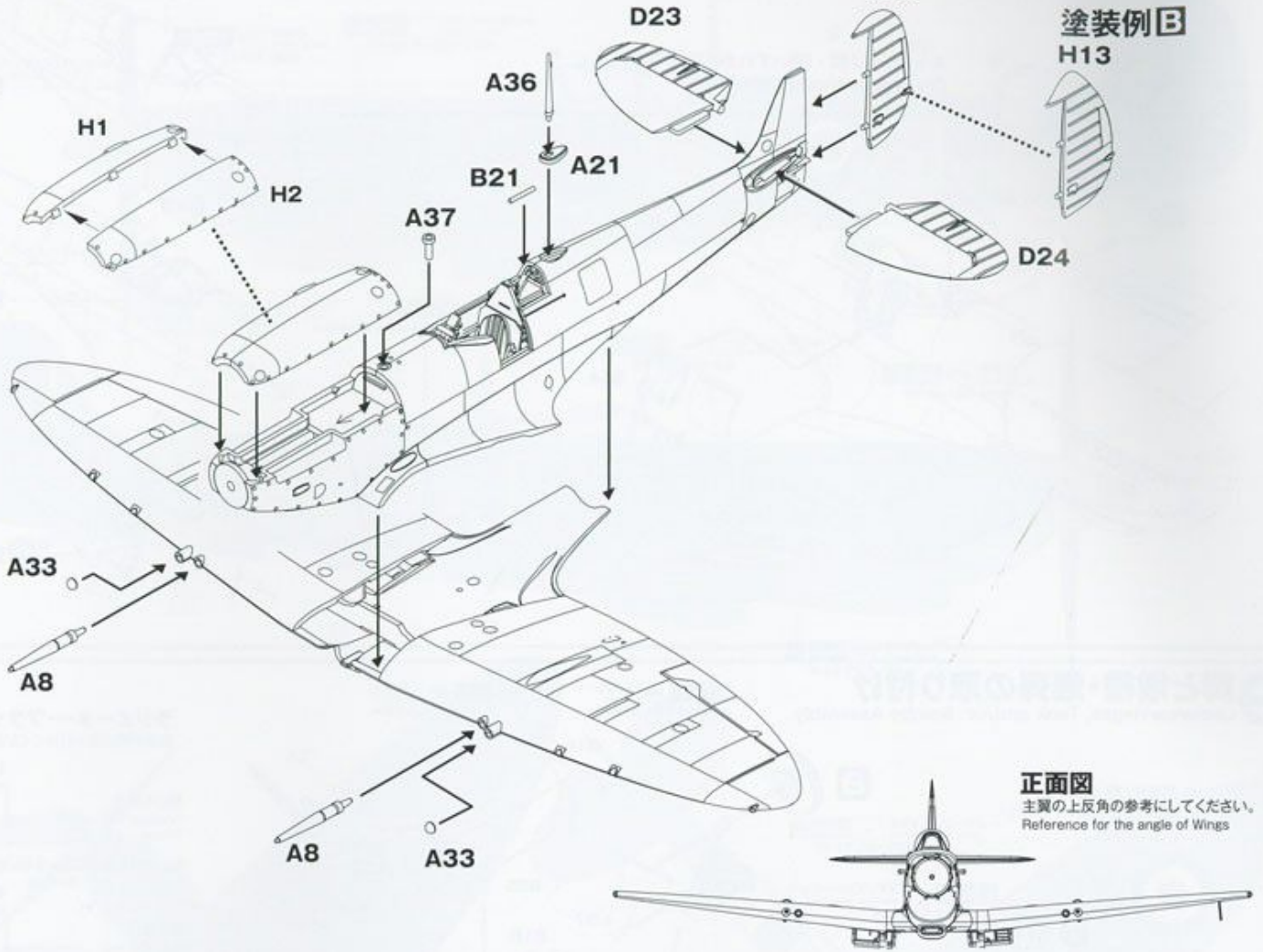


6 主翼と胴体の組み立て

Wings and Fuselage Assembly

塗装例A
H14

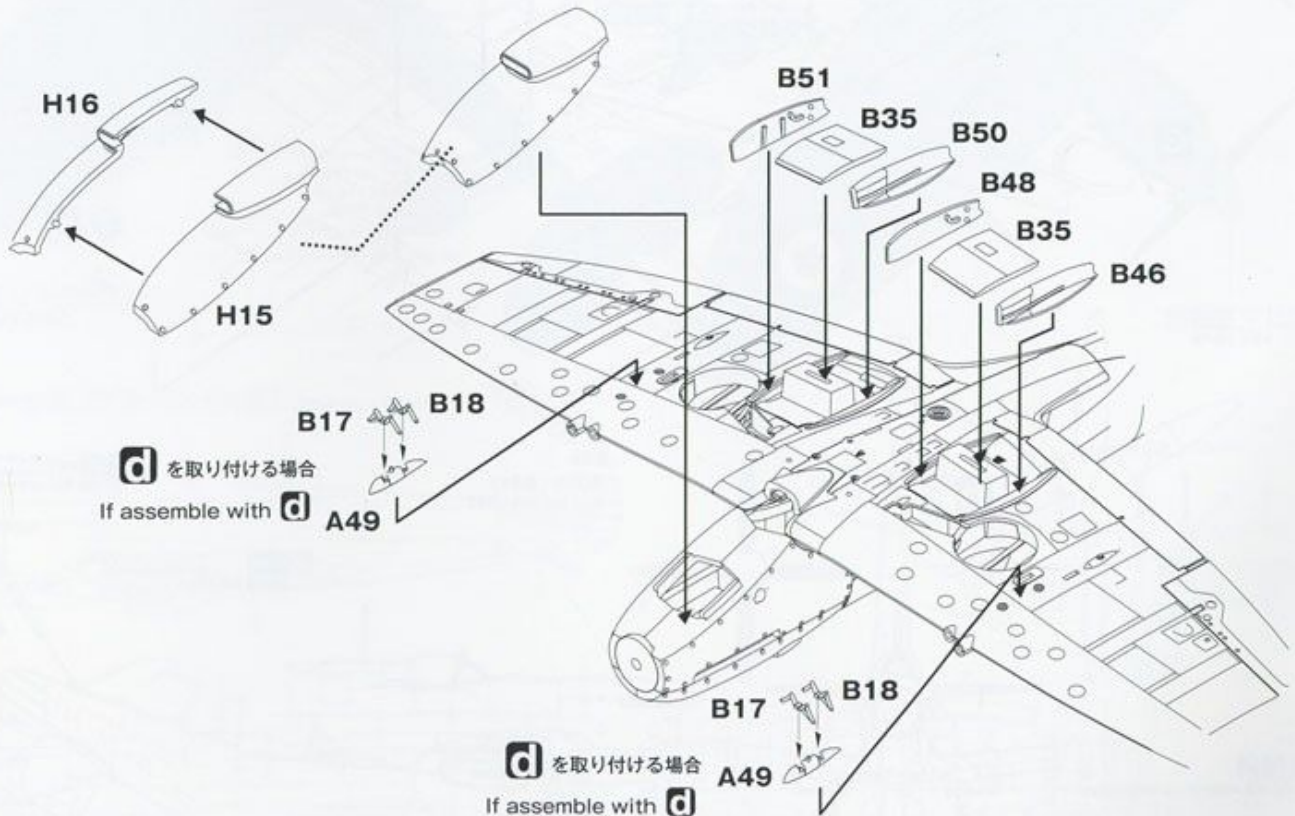
塗装例B
H13



正面図
主翼の上反角の参考にしてください。
Reference for the angle of Wings

7 下面の組み立て

Bottom Surface Assembly



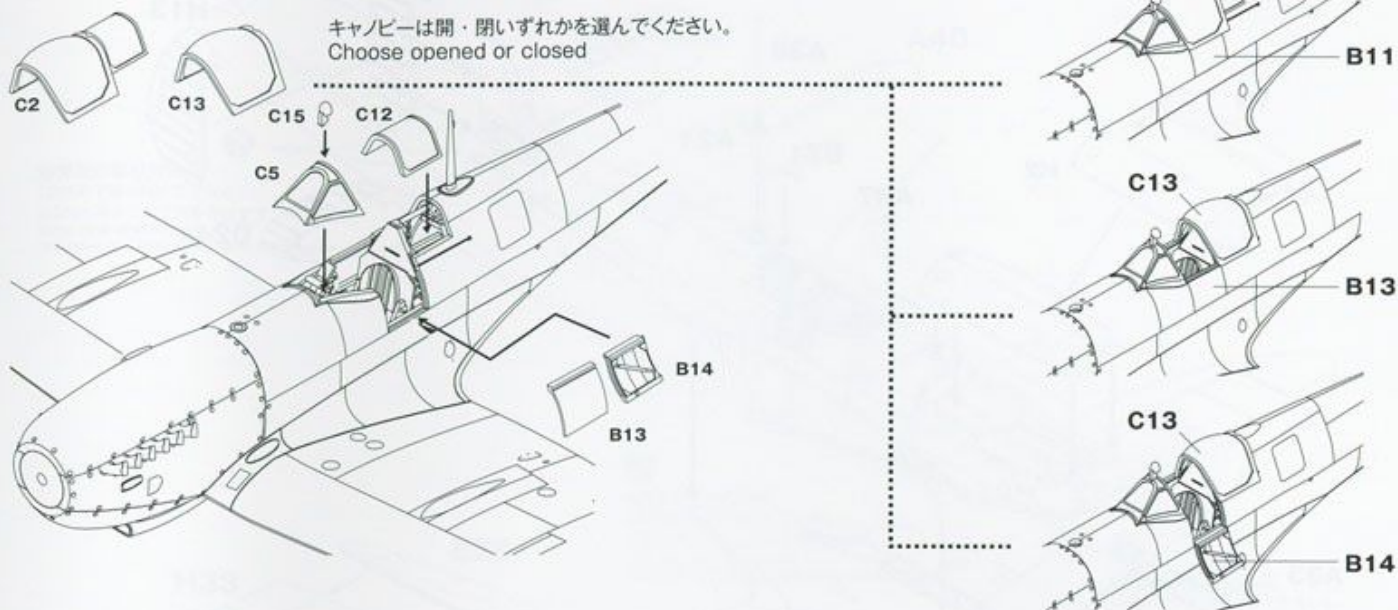
d を取り付ける場合
If assemble with d

d を取り付ける場合
If assemble with d

8 キャンピの組み立て

Canopy Assembly

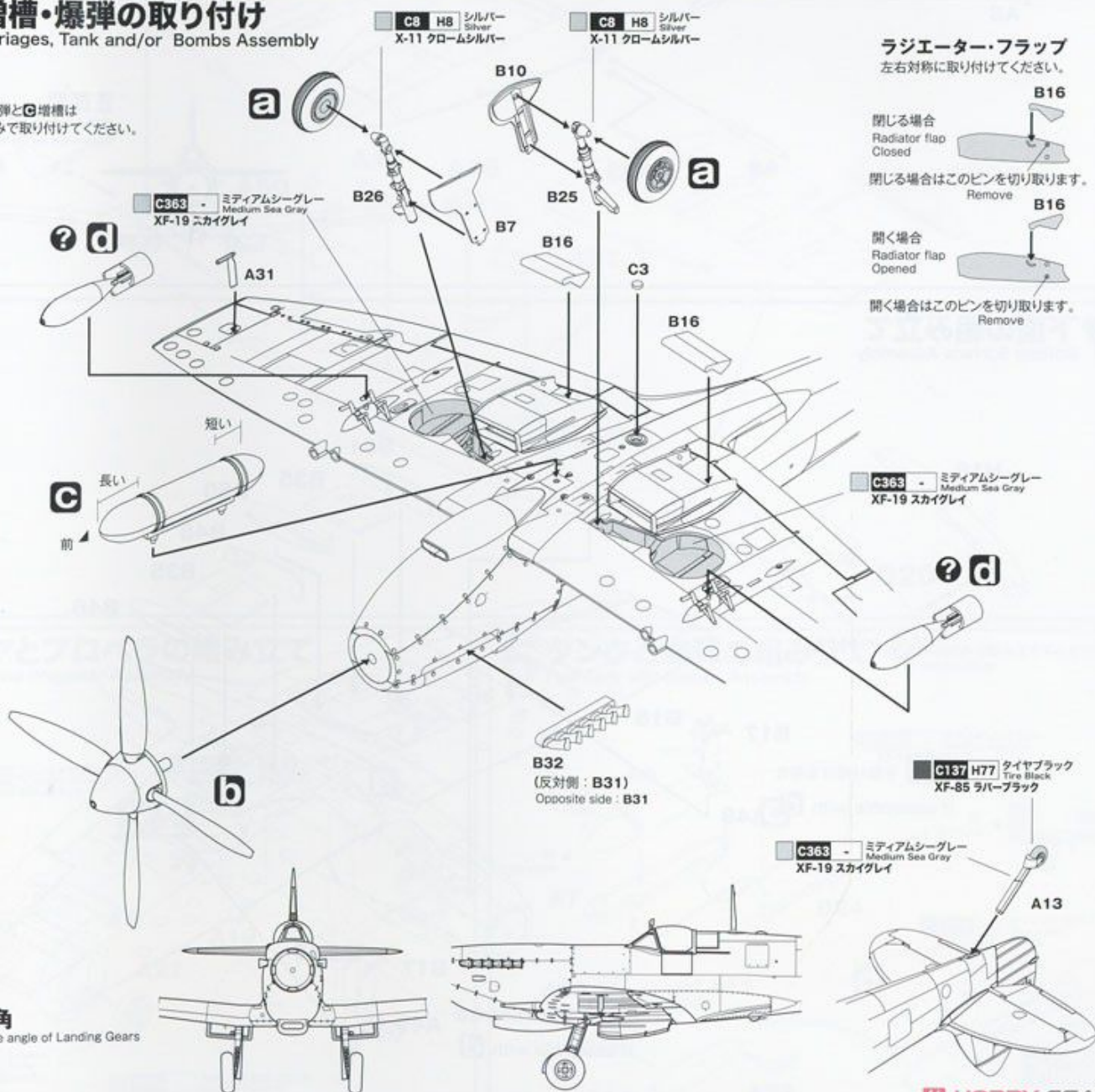
キャンピーは開・閉いずれかを選んでください。
Choose opened or closed



9 脚と増槽・爆弾の取り付け

Undercarriages, Tank and/or Bombs Assembly

※ ㉑ 爆弾と ㉒ 増槽は
お好みで取り付けてください。



脚の取付角

Reference for the angle of Landing Gears